

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201832		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	グループホーム みどりの家 大島 (2F)		
所在地	岡山県倉敷市大島1丁目4番3号		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で穏やかな環境作りを大切にしています。日の光がよく差し込んで明るい雰囲気であり、海が間近であるため気分転換として外を眺めたり、周辺を散歩するだけでも良い刺激が入ってきます。毎月季節行事を実施し、誕生日もささやかながらケーキを用意して皆でお祝いしています。職員同士の連携を大切にし、入居者の状態の変化や健康管理について、常に全体が把握できるよう情報伝達を密に行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 17 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

オープンして新しい割に、運営理念にある‘求められる施設でありたい’を目指し、心から満足できる介護体制に近づいている。話やすい環境を作ったり、個々に話を聞く場を設けたりして、職員の安心に繋げ、職員同士も何でも注意し合える関係ができ、風通しが良い環境となっている。介護計画作成時には情報シートをより分かりやすくした‘心身の情報’(私の姿と気持ちシート)を活用して、情報や意見が反映されやすい工夫をして、利用者へのより良いケアに繋げている。利用者の筋力低下を危惧して、毎月リハビリの先生と連携して、個別の機能訓練に力を入れている。ペダル漕ぎや色々な案を取り入れ、リハビリ方法を模索し、男性利用者の方が、立位でトイレで用を足せるようになった。コロナ禍で外出が困難な状況を鑑みて、秋には、立体的な紅葉を花紙や折り紙で作成し、クリスマスには、松ぼっくりを緑色に塗ることで、クリスマスツリーを模倣し、お正月には、鳥居やお賽銭箱、お神籤を作り、初詣の気分を味わい、春には、廃材を利用して作成した桜の木に花を咲かせようとしているなど、施設内で四季を感じられるように工夫を凝らしていた。施設内に‘新しい息吹’が吹き込み、作った桜が満開に咲くようにと願いながら笑顔が満開となり、関わる方の心が踊る施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人や施設の理念を再確認できるよう事業所各場所に掲示している。まだ周知徹底ができていないと言えない。	理念は、各フロアの事務所と1階の玄関先に掲示している。法人の理念は共通なので、オープン時には職員間で確認をした。職員から理念を確認したいと申し出があり、再確認する場を設け、新人職員には、法人全体の理念を細かく説明し、「安心・安全・身近」の順番の大切さを教えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、なかなか地域の行事に参加することが難しいが、祭りの際にお花代をお渡しする形で微小ながらも関わることができた。	地域の祭りにお花代を渡し、窓越しではあるが、神輿を見ることができた。近隣の遊戯施設の警備員の方と挨拶を交わす関係ができています。オープン前には、内覧会を開いたことで、近隣住民の理解を得られる場を設けた。近所で開催された花火大会を施設内から見ることもできた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、地域貢献というほどのものはできていないが、電話にて地域包括センターとのやり取りを中心に、情報収集や伝達等を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響のため、運営推進会議を行っていない。	オープン時からコロナ禍のためリアル開催ができていない。町内会長、高齢者支援センター、包括、民生委員、他のGHとの連携を考えている。	コロナ禍でも、今からできる関係づくりに取り組んでみてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明なことがあった際には、連絡・相談をするようにしている。	市町村との窓口は、ホーム長となっている。生活保護の方がいて、後見人制度について質問をしたら、親切・丁寧に教えてくれたことがあった。メールやFAXにて、研修の案内やコロナの関連の情報を頂いている。入所状況のお知らせをすることで、連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないよう職員に呼びかけ、2ヶ月に1回身体拘束委員会を開催している。	2ヶ月に1回委員会を開催し、虐待と身体拘束を同時に行っている。事例や防止に向けた取り組みの確認を行っている。スピーチロックについても気になることがあれば、議題として取り上げていて、その場で注意しあえる関係ができています。	スピーチロックについても取り上げてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チェックシートを用いた研修なども行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内研修にて学ぶようにしているが、理解については不十分であり、今後も研修を続けていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に細かく説明を行い、気になることや不安、疑問に思うところについて再々確認するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設けて、意見をいただくようにしている。また、契約時に国保連や介護保険課の連絡方法を掲示している。意見については職員へ伝達し、反映できるように努めている。	コロナ禍なので対面式では基本実施していないが、窓越しやZOOMにて面会を行っている。差し入れや面会時には、利用者の様子を伝え、家族からの要望も聞くようにしている。お部屋の模様替えをしたいと申し出た方へは安全面に配慮し、家族の了承を得た上で配置換えを行ったら喜んで頂けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題点や統一すべきこと、改善点について、空き時間を利用して定期的に職員に確認するようにしている。話し合うべき内容については、密にならないよう少人数事集まり、話し合いをしてまとめ、反映するようにしている。	定期的に面談を実施し、何かあればホーム長が意見を聞くようにしている。職員間の風通しも良く、お互い意見が言い合っている。物品購入や利用者のケアについての意見が多く飛び交っていて、要望を叶えている。有給休暇の取得や希望休の反映もできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別面談を行い、思いや要望、不満についてを聞くようにしている。また、業務の合間などにも遠慮なく話せるよう雰囲気づくりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるようにしている。まだ数多くは参加できていないため、今後多くの研修に参加し、スキルアップできるよう機会を設けていきたい。所内での研修も定期的に行い、職員間でも育成という点に重点を置き、教育していくよう指示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内での事業所とのやり取りはあるが、それ以外の事業所との交流はまだない。ケアの質の向上のためにも、今後交流の機会を得たいと思っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者とのコミュニケーションを大事にし、要望や不安を伺い、安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望等、ご家族の思いを傾聴し、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の情報や生活歴を職員全員で把握し、ホームの生活に慣れていただけるよう支援している。相談については事業所だけではなく法人全体を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活動作や作業などを職員と一緒に行うことで一緒に生活をしているという感覚を得てもらい、穏やかで家庭的な雰囲気の中で生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や書類送付の際に文章にて現在の状態等お伝えをしている。定期的な連絡などはできていないため、今後の課題として定期的な電話連絡や写真などの配布を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により地域との交流は行えていないが、広報誌の配布や近隣住民と会った際に挨拶をするなどでの交流は行っている。	定期的に家族の方から電話が掛かってきて話をする方や、差し入れを持ってきて頂けることで馴染みの関係が継続できている。職員が帰る際に、手を振って「気をつけて」との言葉掛けや、通院時には利用者同士「いってらしゃい」「おかえり」の言葉が飛び交っている。就寝前には「おやすみ」を言う関係が施設内でも形成されていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い入居者同士でなるべく同じテーブルに付くようにしている。お茶の時間や体操の時間など、入居者同士が互いに誘い合ったり、ゆったり過ごせるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談があれば積極的に受けている。同法人内で連携し、今後のサービスに繋げていけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や様子などコミュニケーションからも把握するようにし、困難な場合にはご家族からも希望や意見を求め、介護員本位にならないよう努めている。	「私の姿と気持ちシート」を活用することで、職員間で情報共有ができています。職員は担当制を敷いているので、利用者の様子を理解しやすく、仲良しの利用者同士の会話から意見を聞くこともある。言葉をあまり発しない方へは、以前の施設や家族から情報を提供して頂き、表情や仕草から読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションにより把握したり、ご家族から情報を得て把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人やご家族から、ご自宅でのどのように過ごしていたかを確認し、なるべく元の生活リズムに沿った形でサービスの提供に努めている。生活記録や情報共有によって職員全体で把握し、心身の状態の変化にも気づけるようにしている。介護予防の観点からもできることは継続して行えるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意見を元に、職員間で話し合い、介護計画を作成している。	介護計画は、入居時に暫定プランを作成し、3週間後に本プランへ移行し、何もなければ、介護保険更新時に見直している。モニタリングは2ヶ月に1回行っている。何かあればその都度、担当者会議を開催することで、ケアプランの見直しをしている。「私の姿と気持ちシート」を活用して、利用者に寄り添った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録への記入、職員間での情報伝達により日々の様子を把握し、実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの希望に出来る限り対応できるよう努めている。他事業所や地域包括、病院等に相談し、幅広く柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に進出しにくい現状ではあるが、市や地域包括等より情報を得られるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される病院への受診を行えるように支援している。協力病院とは月2回の往診と、電話での情報交換や報告相談を行い、状態変化に応じて支援を行えるようにしている。	母体が病院なので全員が協力医に転医している。各ユニット月2回の往診だが、何かある場合には、対応して頂けるので安心することができている。ドクターとの関係も良好で、何でも話すことができている。他科受診は、家族の方をお願いをしている。歯科受診は、職員が連れて行く。訪問看護師と24時間の連携が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院から週1回訪問看護に来ていただき、報告相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院関係者と情報交換や相談を積極的に求めている。定期的に連絡し、状態の確認なども行い、スムーズに対応できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化についての指針について説明を行い、必要時には主治医や家族と今後についての話し合いを行い、状況に応じて施設への入所や医療機関への移行などの支援を行えるようにしている。	看取りは施設内では実施していない。同法人内の関連施設と連携が取れている。入居時に重要事項説明書にて、同意書を交わしている。看取り期に差し掛かった場合には、再度家族や本人の思いを聞き、ドクターからの指示も聞いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルを作成し、定期的に研修として訓練するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行っている。	年2回、昼夜想定で火災訓練を実施し、水消火器を使った訓練も行った。各フロアの事務所に連絡網を掲示している。普段のおやつや飲み物がいざというときの備蓄になっている。賞味期限間近のものは、利用者に提供することで、フードロスなくしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・マナーについて注意し、丁寧な言葉かけを行うように努めている。	呼称は基本苗字に「さん」付けだが、同性の場合は、フルネームに「さん」付けで呼んでいる。部屋番号で呼ぶことで、プライバシーの配慮ができていく。年1回以上、接遇やマナーについて研修をしている。今月、外部の接遇・マナー研修にWEBで参加する予定で、参加していない職員には、資料を配布することで情報共有をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定ができるよう、声掛け対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、日々の状態に合わせて声掛けしながら本人の希望するように過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を、なるべく自分で選ぶようにしてもらっている。爪切りや髭剃り、散髪も定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けに関しては職員が行っている。食事が楽しみになるよう、好みや形態など意見を聞いている。	3食ケイタリングだが、お米は施設で炊いている。行事食も豊富で、海外のメニューやちらし寿司、麺類が好評だった。苦手な物があれば、事前に申し出れば変更も可能。毎月、誕生日会やお茶会を開いて、ケーキを食している。コップは馴染みの物を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を記録し、職員全体でも把握するように努めている。体重測定も定期的に行い、変化に応じて医師や栄養士、給食業者等多職種と相談するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きをしてもらい、困難な方には職員が手伝うようにしている。月一回歯科衛生士による口腔指導を受け、口腔ケアについて注意して行うようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行うように努めている。必要な方はご家族と相談し、ポータブルトイレや尿器を居室に用意させていただいている。	トイレは各3ヶ所あり、車イスも通れる広さだった、便座は定期的に掃除していて、24時間の換気、消臭剤も使用している。日中は布パンツで過ごされる方もいて、夜間のみポータブルトイレや尿瓶を使われる方もいる。排泄失敗時には、耳元でさりげなく囁き、トイレに誘導をする工夫が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や栄養士と相談しながら、水分補給を多めにしたたり服薬管理によって無理のない範囲で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員のほうで入浴の曜日は決めさせてもらっているが、本人の希望に応じて時間や日にち、入る時間などを変更したり、入浴剤を使用して楽しめるようにし、臨機応変に対応できるようにしている。	週2回。柑橘系の入浴剤が人気で、季節湯として、ゆずの香りがする入浴剤を使ったら大好評だった。入浴を拒否される方へは、時間帯や職員を変えて、決して無理強いはいはしない対応をし、「景色を見にいこう」と言葉掛けをして誘導している。脱衣所は冷暖房完備で、ヒートショックにも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人希望を聞きながら生活習慣を把握し、休息の時間も十分とれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や効能について把握するよう努めている。変更があった場合には申し送りノートに詳しく記載している。薬の用意については間違いがないよう、日付や名前など職員同士で必ず確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みやゴミ箱作り等の軽作業など、できることや得意なことをお願いしながらしてもらっている。気持ちよく作業できるよう、感謝の言葉を伝えたり、その時の気分や状態に応じて無理強いしないようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため遠方まで外出はできていないが、気分転換として玄関先まで出て外の空気を吸ったり、海を眺めたりしている。	コロナ禍のため、敷地内を散歩をしたり、日向ぼっこをしたりして過ごしている。通院時にドライブがてら、海や瀬戸大橋を眺めることで、外出気分が味わえている。施設内で桜を咲かせようと、廃材を再利用して桜の花を見事に咲かせていた。午前中に体操、午後は個別の機能訓練をすることで機能低下を防いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、個人でお金を持たないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や本人と相談しながら、電話や手紙のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温や湿度等に注意し、快適に過ごせるように配慮している。声掛けしながら窓やカーテンを開け閉めしながら、光量や換気にも注意している。	月ごとにちぎり絵の作品を飾ることで季節感が味わえている。ソファに腰掛けて、漢字合わせをしたり、新聞を読んだりして過ごしている。午前中に、TV体操や集団体操をして体を動かしている。午前・午後のティータイムでは自分の好きな物を飲み、お喋りを楽しんでいる様子が窺えた。窓から一望できる海が、癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で話ができるよう、席位置など配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス等の家具については、入所時にご利用者の使い慣れたものを推奨させてもらっている。落ち着いて過ごせるよう配慮し、必要な物や欲しいものなど随時本人やご家族に相談させてもらっている。	備え付けは、ベッド、照明、エアコン。仏壇や犬のぬいぐるみ、ハンガーラックが持ち込まれ、電子フォトで孫の写真がいつでも見ることができる。プライバシーに配慮して鍵も掛けられる。居室では、TVやラジオを聴いたり、ナンプレを解いて過ごしている。携帯電話を持ち込んで、家族や友人に電話をする方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできることやわかること、能力の把握に努め、自立した生活が送れるように手すりや家具の配置、機能訓練による筋力維持などに注意するように努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201832		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	グループホーム みどりの家 大島 (3F)		
所在地	岡山県倉敷市大島1丁目4番3号		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で穏やかな環境作りを大切にしています。日の光がよく差し込んで明るい雰囲気であり、海が間近であるため気分転換として外を眺めたり、周辺を散歩するだけでも良い刺激が入ってきます。毎月季節行事を実施し、誕生日もささやかながらケーキを用意して皆でお祝いしています。職員同士の連携を大切にし、入居者の状態の変化や健康管理について、常に全体が把握できるよう情報伝達を密に行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 17 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

オープンして新しい割に、運営理念にある‘求められる施設でありたい’を目指し、心から満足できる介護体制に近づいている。話やすい環境を作ったり、個々に話を聞く場を設けたりして、職員の安心に繋げ、職員同士も何でも注意し合える関係ができ、風通しが良い環境となっている。介護計画作成時には情報シートをより分かりやすくした‘心身の情報’(私の姿と気持ちシート)を活用して、情報や意見が反映されやすい工夫をして、利用者へのより良いケアに繋げている。利用者の筋力低下を危惧して、毎月リハビリの先生と連携して、個別の機能訓練に力を入れている。ペダル漕ぎや色々な案を取り入れ、リハビリ方法を模索し、男性利用者の方が、立位でトイレで用を足せるようになった。コロナ禍で外出が困難な状況を鑑みて、秋には、立体的な紅葉を花紙や折り紙で作成し、クリスマスには、松ぼっくりを緑色に塗ることで、クリスマスツリーを模倣し、お正月には、鳥居やお賽銭箱、お神籤を作り、初詣の気分を味わい、春には、廃材を利用して作成した桜の木に花を咲かせようとしているなど、施設内で四季を感じられるように工夫を凝らしていた。施設内に‘新しい息吹’が吹き込み、作った桜が満開に咲くようにと願いながら笑顔が満開となり、関わる方の心が踊る施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人や施設の理念を再確認できるよう事業所各場所に掲示している。まだ周知徹底ができていないと言えない。	理念は、各フロアの事務所と1階の玄関先に掲示している。法人の理念は共通なので、オープン時には職員間で確認をした。職員から理念を確認したいと申し出があり、再確認する場を設け、新人職員には、法人全体の理念を細かく説明し、「安心・安全・身近」の順番の大切さを教えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、なかなか地域の行事に参加することが難しいが、祭りの際にお花代をお渡しする形で微小ながらも関わることができた。	地域の祭りにお花代を渡し、窓越しではあるが、神輿を見ることができた。近隣の遊戯施設の警備員の方と挨拶を交わす関係ができています。オープン前には、内覧会を開いたことで、近隣住民の理解を得られる場を設けた。近所で開催された花火大会を施設内から見ることもできた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、地域貢献というほどのものはできていないが、電話にて地域包括センターとのやり取りを中心に、情報収集や伝達等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響のため、運営推進会議を行っていない。	オープン時からコロナ禍のためリアル開催ができていない。町内会長、高齢者支援センター、包括、民生委員、他のGHとの連携を考えている。	コロナ禍でも、今からできる関係づくりに取り組んでみてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明なことがあった際には、連絡・相談をするようにしている。	市町村との窓口は、ホーム長となっている。生活保護の方がいて、後見人制度について質問をしたら、親切・丁寧に教えてくれたことがあった。メールやFAXにて、研修の案内やコロナの関連の情報を頂いている。入所状況のお知らせをすることで、連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないよう職員に呼びかけ、2ヶ月に1回身体拘束委員会を開催している。	2ヶ月に1回委員会を開催し、虐待と身体拘束を同時に行っている。事例や防止に向けた取り組みの確認を行っている。スピーチロックについても気になることがあれば、議題として取り上げていて、その場で注意しあえる関係ができています。	スピーチロックについても取り上げてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チェックシートを用いた研修なども行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内研修にて学ぶようにしているが、理解については不十分であり、今後も研修を続けていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に細かく説明を行い、気になることや不安、疑問に思うところについて再々確認するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設けて、意見をいただくようにしている。また、契約時に国保連や介護保険課の連絡方法を掲示している。意見については職員へ伝達し、反映できるように努めている。	コロナ禍なので対面式では基本実施していないが、窓越しやZOOMにて面会を行っている。差し入れや面会時には、利用者の様子を伝え、家族からの要望も聞くようにしている。お部屋の模様替えをしたいと申し出た方へは安全面に配慮し、家族の了承を得た上で配置換えを行ったら喜んで頂けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題点や統一すべきこと、改善点について、空き時間を利用して定期的に職員に確認するようにしている。話し合うべき内容については、密にならないよう少人数事集まり、話し合いをしてまとめ、反映するようにしている。	定期的に面談を実施し、何かあればホーム長が意見を聞くようにしている。職員間の風通しも良く、お互い意見が言い合っている。物品購入や利用者のケアについての意見が多く飛び交っていて、要望を叶えている。有給休暇の取得や希望休の反映もできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別面談を行い、思いや要望、不満についてを聞くようにしている。また、業務の合間などにも遠慮なく話せるよう雰囲気づくりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるようにしている。まだ数多くは参加できていないため、今後多くの研修に参加し、スキルアップできるよう機会を設けていきたい。所内での研修も定期的に行い、職員間でも育成という点に重点を置き、教育していくよう指示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内での事業所とのやり取りはあるが、それ以外の事業所との交流はまだない。ケアの質の向上のためにも、今後交流の機会を得たいと思っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者とのコミュニケーションを大事にし、要望や不安を伺い、安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望等、ご家族の思いを傾聴し、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の情報や生活歴を職員全員で把握し、ホームの生活に慣れていただけるよう支援している。相談については事業所だけではなく法人全体を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活動作や作業などを職員と一緒に行うことで一緒に生活をしているという感覚を得てもらい、穏やかで家庭的な雰囲気の中で生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や書類送付の際に文章にて現在の状態等お伝えをしている。定期的な連絡などはできていないため、今後の課題として定期的な電話連絡や写真などの配布を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により地域との交流は行えていないが、広報誌の配布や近隣住民と会った際に挨拶をするなどでの交流は行っている。	定期的に家族の方から電話が掛かってきて話をする方や、差し入れを持ってきて頂けることで馴染みの関係が継続できている。職員が帰る際に、手を振って「気をつけて」との言葉掛けや、通院時には利用者同士「いってらしゃい」「おかえり」の言葉が飛び交っている。就寝前には「おやすみ」を言う関係が施設内でも形成されていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い入居者同士でなるべく同じテーブルに付くようにしている。お茶の時間や体操の時間など、入居者同士が互いに誘い合ったり、ゆったり過ごせるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談があれば積極的に受けている。同法人内で連携し、今後のサービスに繋げていけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や様子などコミュニケーションからも把握するようにし、困難な場合にはご家族からも希望や意見を求め、介護員本位にならないよう努めている。	「私の姿と気持ちシート」を活用することで、職員間で情報共有ができています。職員は担当制を敷いているので、利用者の様子を理解しやすく、仲良しの利用者同士の会話から意見を聞くこともある。言葉をあまり発しない方へは、以前の施設や家族から情報を提供して頂き、表情や仕草から読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションにより把握したり、ご家族から情報を得て把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人やご家族から、ご自宅でのどのように過ごしていたかを確認し、なるべく元の生活リズムに沿った形でサービスの提供に努めている。生活記録や情報共有によって職員全体で把握し、心身の状態の変化にも気づけるようにしている。介護予防の観点からもできることは継続して行えるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意見を元に、職員間で話し合い、介護計画を作成している。	介護計画は、入居時に暫定プランを作成し、3週間後に本プランへ移行し、何もなければ、介護保険更新時に見直している。モニタリングは2ヶ月に1回行っている。何かあればその都度、担当者会議を開催することで、ケアプランの見直しをしている。「私の姿と気持ちシート」を活用して、利用者に寄り添った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録への記入、職員間での情報伝達により日々の様子を把握し、実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの希望に出来る限り対応できるよう努めている。他事業所や地域包括、病院等に相談し、幅広く柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に進出しにくい現状ではあるが、市や地域包括等より情報を得られるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される病院への受診を行えるように支援している。協力病院とは月2回の往診と、電話での情報交換や報告相談を行い、状態変化に応じて支援を行えるようにしている。	母体が病院なので全員が協力医に転医している。各ユニット月2回の往診だが、何かある場合には、対応して頂けるので安心することができている。ドクターとの関係も良好で、何でも話すことができている。他科受診は、家族の方をお願いをしている。歯科受診は、職員が連れて行く。訪問看護師と24時間の連携が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院から週1回訪問看護に来ていただき、報告相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院関係者と情報交換や相談を積極的に求めている。定期的に連絡し、状態の確認なども行い、スムーズに対応できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化についての指針について説明を行い、必要時には主治医や家族と今後についての話し合いを行い、状況に応じて施設への入所や医療機関への移行などの支援を行えるようにしている。	看取りは施設内では実施していない。同法人内の関連施設と連携が取れている。入居時に重要事項説明書にて、同意書を交わしている。看取り期に差し掛かった場合には、再度家族や本人の思いを聞き、ドクターからの指示も聞いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルを作成し、定期的に研修として訓練するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行っている。	年2回、昼夜想定で火災訓練を実施し、水消火器を使った訓練も行った。各フロアの事務所に連絡網を掲示している。普段のおやつや飲み物がいざというときの備蓄になっている。賞味期限間近のものは、利用者に提供することで、フードロスなくしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・マナーについて注意し、丁寧な言葉かけを行うように努めている。	呼称は基本苗字に「さん」付けだが、同性の場合は、フルネームに「さん」付けで呼んでいる。部屋番号で呼ぶことで、プライバシーの配慮ができていく。年1回以上、接遇やマナーについて研修をしている。今月、外部の接遇・マナー研修にWEBで参加する予定で、参加していない職員には、資料を配布することで情報共有をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定ができるよう、声掛け対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、日々の状態に合わせて声掛けしながら本人の希望するように過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を、なるべく自分で選ぶようにしてもらっている。爪切りや髭剃り、散髪も定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けに関しては職員が行っている。食事が楽しみになるよう、好みや形態など意見を聞いている。	3食ケイタリングだが、お米は施設で炊いている。行事食も豊富で、海外のメニューやちらし寿司、麺類が好評だった。苦手な物があれば、事前に申し出れば変更も可能。毎月、誕生日会やお茶会を開いて、ケーキを食している。コップは馴染みの物を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を記録し、職員全体でも把握するように努めている。体重測定も定期的に行い、変化に応じて医師や栄養士、給食業者等多職種と相談するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きをしてもらい、困難な方には職員が手伝うようにしている。月一回歯科衛生士による口腔指導を受け、口腔ケアについて注意して行うようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行うように努めている。必要な方はご家族と相談し、ポータブルトイレや尿器を居室に用意させていただいている。	トイレは各3ヶ所あり、車イスも通れる広さだった、便座は定期的に掃除していて、24時間の換気、消臭剤も使用している。日中は布パンツで過ごされる方もいて、夜間のみポータブルトイレや尿瓶を使われる方もいる。排泄失敗時には、耳元でさりげなく囁き、トイレに誘導をする工夫が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や栄養士と相談しながら、水分補給を多めにしたたり服薬管理によって無理のない範囲で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員のほうで入浴の曜日は決めさせてもらっているが、本人の希望に応じて時間や日にち、入る時間などを変更したり、入浴剤を使用して楽しめるようにし、臨機応変に対応できるようにしている。	週2回。柑橘系の入浴剤が人気で、季節湯として、ゆずの香りがする入浴剤を使ったら大好評だった。入浴を拒否される方へは、時間帯や職員を変えて、決して無理強いはいはしない対応をし、「景色を見にいこう」と言葉掛けをして誘導している。脱衣所は冷暖房完備で、ヒートショックにも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人希望を聞きながら生活習慣を把握し、休息の時間も十分とれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や効能について把握するよう努めている。変更があった場合には申し送りノートに詳しく記載している。薬の用意については間違いがないよう、日付や名前など職員同士で必ず確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みやゴミ箱作り等の軽作業など、できることや得意なことをお願いしながらしてもらっている。気持ちよく作業できるよう、感謝の言葉を伝えたり、その時の気分や状態に応じて無理強いしないようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため遠方まで外出はできていないが、気分転換として玄関先まで出て外の空気を吸ったり、海を眺めたりしている。	コロナ禍のため、敷地内を散歩をしたり、日向ぼっこをしたりして過ごしている。通院時にドライブがてら、海や瀬戸大橋を眺めることで、外出気分が味わえている。施設内で桜を咲かせようと、廃材を再利用して桜の花を見事に咲かせていた。午前中に体操、午後は個別の機能訓練をすることで機能低下を防いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、個人でお金を持たないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や本人と相談しながら、電話や手紙のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温や湿度等に注意し、快適に過ごせるように配慮している。声掛けしながら窓やカーテンを開け閉めしながら、光量や換気にも注意している。	月ごとにちぎり絵の作品を飾ることで季節感が味わえている。ソファに腰掛けて、漢字合わせをしたり、新聞を読んだりして過ごしている。午前中に、TV体操や集団体操をして体を動かしている。午前・午後のティータイムでは自分の好きな物を飲み、お喋りを楽しんでいる様子が窺えた。窓から一望できる海が、癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で話ができるよう、席位置など配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス等の家具については、入所時にご利用者の使い慣れたものを推奨させてもらっている。落ち着いて過ごせるよう配慮し、必要な物や欲しいものなど随時本人やご家族に相談させてもらっている。	備え付けは、ベッド、照明、エアコン。仏壇や犬のぬいぐるみ、ハンガーラックが持ち込まれ、電子フォトで孫の写真がいつでも見ることができる。プライバシーに配慮して鍵も掛けられる。居室では、TVやラジオを聴いたり、ナンプレを解いて過ごしている。携帯電話を持ち込んで、家族や友人に電話をする方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできることやわかること、能力の把握に努め、自立した生活が送れるように手すりや家具の配置、機能訓練による筋力維持などに注意するように努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない